

株式会社沖縄教育出版

事業内容：健康食品・自然派化粧品企画、通信販売

1 働きがいのある楽しい職場環境

1977 年出版事業を創業。1994 年、創業者自らの大病の経験から、天職発想で健康食品事業部を立ち上げ。現在は出版事業ではなく、健康食品・自然派化粧品の企画、通信販売を行っている。

企業理念 「私たちは、地球上に住む全ての人々が健康で平和に暮らせる社会をつくるため、みんなで力を合わせて、働きがいのある楽しい職場環境を創り、お役立ちの喜びを実践しています。」

総従業員 120 名（パート 100 名、女性 80 名、ハンディーキャップ 11 名）平均年齢 55 歳

2 本論

同社の社名には「出版」の文字が付いているが、書籍出版をやっていたのは創業した 1977 年から十数年で、現在では健康食品、化粧品の通販が主な事業となっている。それは出版事業を創業した現会長の大病の経験から、「本当に世の中の役に立つ仕事はなにか」、「人の役に立つ仕事は何か」を問い直し、そして健康であることの大切さと幸せを伝えることが出来る健康食品事業を立ち上げ、事業の大転換を行っている。

当社の名物ともいえる朝礼は 2 時間にも及ぶ。高齢者や若年層、健常者と障がい者、社員とパート、男と女などその枠組みを越え、多様性にあふれた総従業員 120 名と毎日のように訪れる見学者によって行われる朝礼は、まさに壮観である。まず、お互いの肩を揉みあい、ストレッチをし、ハッピー体操（心の体操）などを行う。その後、ファシリテーターによって朝礼は進められる。パート職員の平均勤務時間が 5 時間ということであるが、その 1 時間以上を朝礼に割いている。つまり、朝礼と一緒に働く仲間を理解し、信頼しあう場とすることで、生産性よりも、E S や従業員のモチベーションを高めることに徹底して取り組んでいる。E S やモチベーションが高まれば、当然 C S も高まっていく。

日常業務は定期的にシャッフルされるチーム制で成り立っている。チーム単位でミーティングを行い、情報を共有し、課題解決を行うと同時に、チームワークの醸成を図っている。川畑社長は、経営者ができることとして、「環境と仕組みを作ること」と言っている。チームワークがよければ成果は出やすく、そのチームワークの醸成をいかにして実行するかが、経営者の一番の仕事だと言う。

何事も実践させれば、必ず抵抗があるが、そこで結果を出させ、また実践させる。その繰り返しによって、変化を好む人材を育成することが、一人ひとりの成長に繋がり、また企業の成長にも繋がる。人の成長を伴わない企業の成長は、成長とは呼べない。

また、個人の成長という観点でいえば、128文字で「事実」と「そこから見える価値」について毎日報告をさせている。これは、従業員一人ひとりに考えることを習慣化させ、結果としてそれぞれのモチベーションの向上につなげている。当社の掲げる、「価値前提の経営」、「価値を生む経営」はここから生まれている。

3 結論

当社の企業理念は、創業者である現会長が大病を患ったことを転機に、何のために事業を行うのかという観点から見直された。理念経営の究極の目的は、世界平和だと会長はいう。理念があり、目的があり、それを実現するためのビジネスモデルと会社を、過去に作り上げてきたものを投げ捨ててまで追い求めた典型的な企業である。そして、経営の実践と理念が一致している数少ない企業でもある。

川畑社長は、非カリスマ経営を実践し、フラットな階層の組織においてE Sを向上させ、また理念を浸透させている。どんなに事業がうまくいっても、働いている人が幸せを感じなかったら、理念どころか事業そのものが継続できない。

当社のオペレーターは、一人ひとりが商店主という考えがあるそうである。商店主が集まり、商店街（会社）や町ができ、その先に、沖縄、日本、いや世界中の人々の幸せや世界平和が見えてくる。

生産性を度外視した、2時間にも及ぶ朝礼は決して無駄なものではないのである。理念の実践こそが、企業の成長を決定付ける。

近い将来、社名の変更を検討しているというが、新しい社名が気になってしょうがない。これからますます楽しい企業である。